

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	静岡におけるヨーロッパ文化の発見 —ポスト・コロナ時代の国際関係学の模索②—				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	小窪 千早
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	高畑 幸
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	宮崎 晋生
		所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	青山 知靖
		所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	山本 健介
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香

講演題目	静岡におけるヨーロッパ文化の発見
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>研究の背景と目的</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大で海外渡航が困難になり、全国の外国語学部や国際関係学を掲げる学部は軒並み志願者を減らしている。「国際関係学」のなかでも地域研究分野への関心の薄れが見られ、それはゼミナール選択と専門プログラム選択の結果に顕著である。以上により海外旅行や留学を併用する従来型の地域研究・学習のモデルは再考を迫られていると考え、本研究では私たちの生活のなかに息づく「海外文化」を探り、新たな国際関係学のモデルを創出することを目指した。これからの地域研究は静岡における海外文化の存在を実感できる具体的な場を用意することが不可欠なのである。</p> <p>成果</p> <p>『県大×おまちゼミ 比べて学ぶことばと文化』として以下の4回の公開講座と1回のオンデマンド講座、1回の特別企画を実施した。</p> <p>第1回「演劇祭は私たちに何をもちたすのか？—SPACの制作スタッフと考える『ふじのくににせいかい演劇祭』」SPAC制作部・丹治陽氏、静岡県立大学、於・静岡県立大学、2022年4月21日。</p> <p>第2回「世界に広がるMANGA」静岡市国際交流員・フォステイン・ボドゥ氏、ヒュー・スティーブンソン氏、於・静岡県立大学、2022年6月15日。</p> <p>第3回「フランスでワインを造る・地域の特性 Terroir と国際競争力」仏ナント在住ワイン醸造家・古谷遼友氏、於・静岡県立大学、2022年11月25日。</p> <p>第4回「北欧児童文学の世界・私にとってのスウェーデン児童文学—ニルスやピッピと出会って—」翻訳家菱木晃子氏、於・静岡県立大学国際関係学部、2023年1月25日。</p> <p>特別編「アントニオ・マチャードをめぐって—印象派と俳句—」バリャドリード大学教育学部長・リカルド・デ・ラ・フエンテ氏、オンデマンド公開 (https://ir.u-shizuoka-ken.ac.jp/omachiseminar/)。</p> <p>特別企画「渋沢栄一&明治初期の静岡に触れる・留学生との静岡おまちめぐりウォーキング」宮崎晋生主宰、2022年7月3日。</p> <p>3月には宮崎がスペイン国立バリャドリード大学商学部で特別講義を行い、また、オランダを訪問し現地での静岡茶の受容について調査する。4月に公開講座で報告を行う予定である。</p>